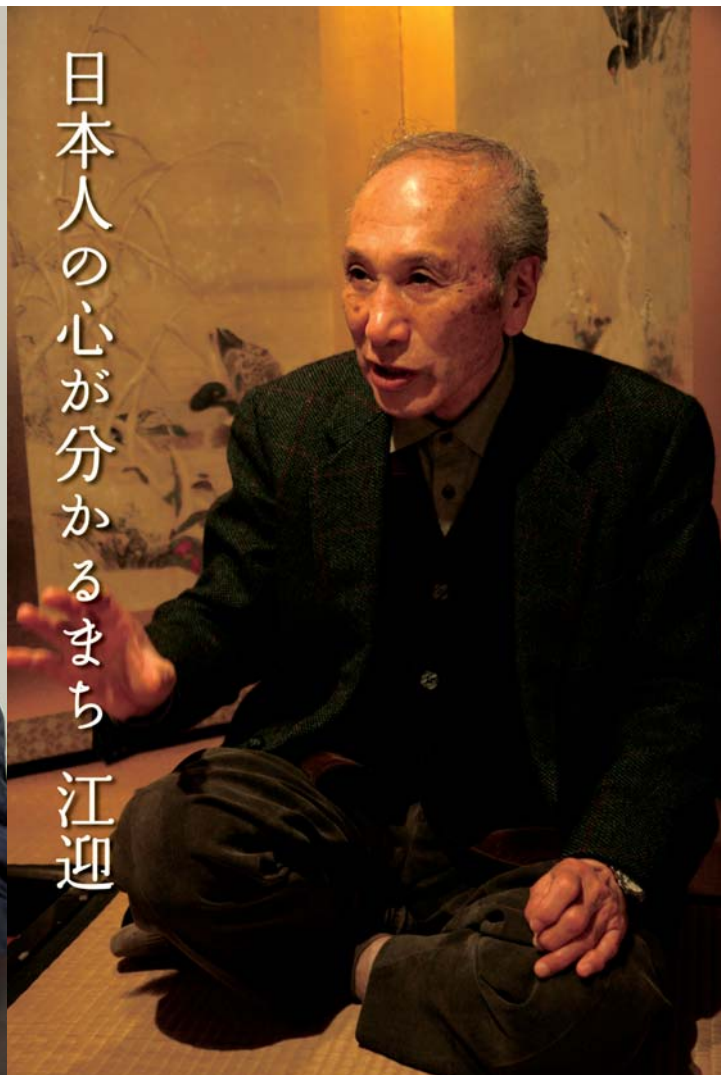


地元の人に聞く

江迎、鹿町の魅力

トラフグの塩焼きは絶品 鹿町

日本人の心が分かるまち 江迎



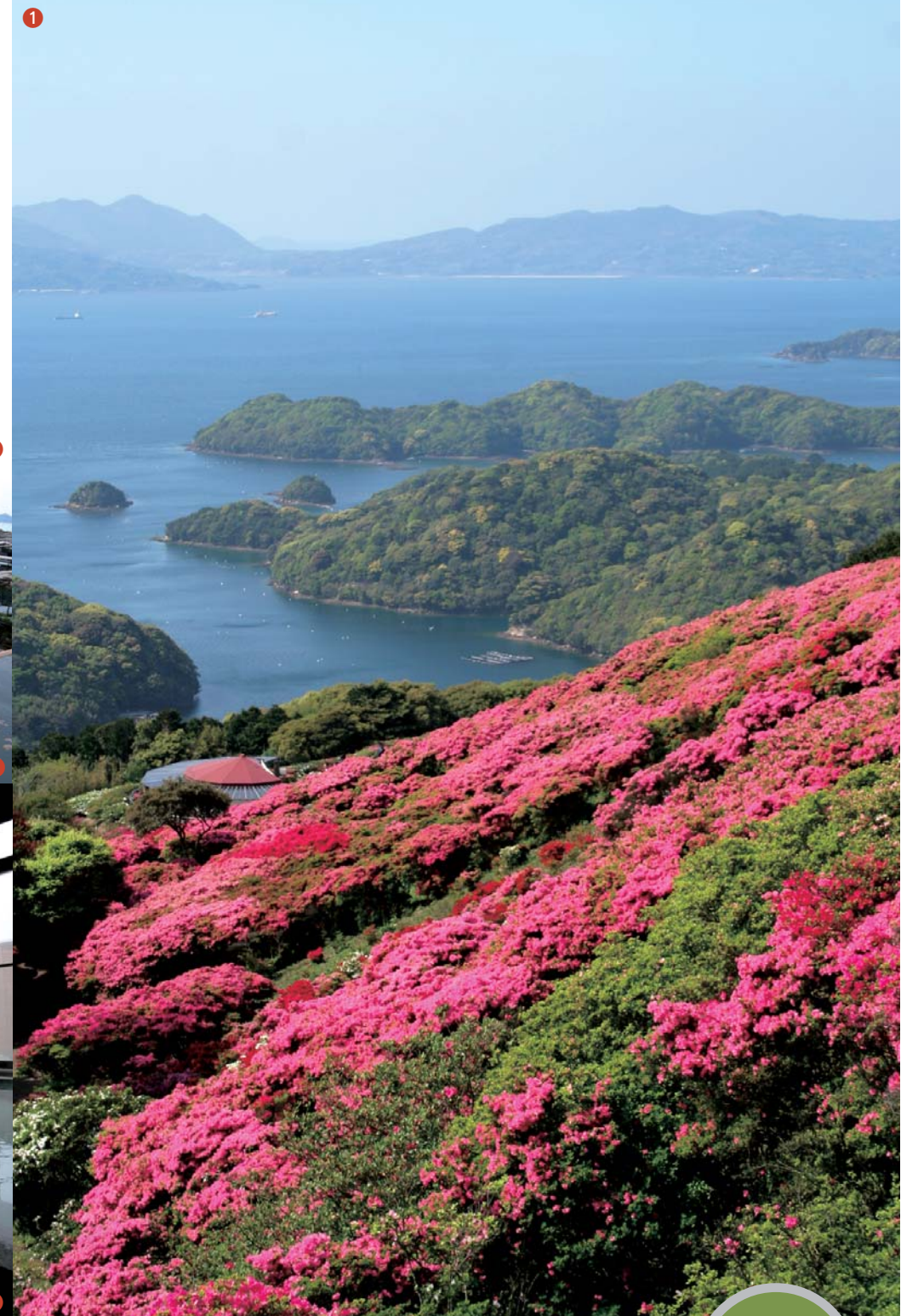
鹿町はイワシ、アジ、サバ漁、九十九島の地形を生かした真珠や魚の養殖などが盛んです。昭和40年代に県下で最初に鯛養殖を始めた地域ですが、価格の低迷により現在はトラフグ養殖に転換しています。トラフグの養殖は難しく、管理を怠ればすぐ死んでしまいます。ストレスに弱く、3か月に1回は養殖網を取り替えたり、噛み合いを防ぐため歯を切ったりして、1年半かけて大切に育てます。トラフグは一般的には刺身や鍋などで食べますが、わたしのお勧めは塩焼きです。ぜひ一度ご賞味ください。今後は豊かな自然で育った海産物を多くの皆さんにPRしていきたいと思ひます。

元合併協議会委員
九十九島漁業協同組合理事
吉浦初義さん（鹿町町長）

江迎には参勤交代（江戸時代）の宿場町の名残があり、各地区では民俗伝承行事などが先祖から代々継承されています。平戸街道（平戸～彼杵）、長崎街道（長崎～小倉）の中で「本陣」がそのまま現存しているのはここだけで、参勤交代の名残と言われる長坂神社のおくち「毛槍行列」も伝承されています。佐世保はアメリカなどの洋文化が大きく影響している地域ですが、和文化を持つ江迎と合併することは大変意義深いと思ひます。市民の皆さんには江迎の伝統行事などを見て、伝統を守る地元の人々の気力・精神力を感じていただき、日本人の心を知ってもらいたいと思ひます。

江迎本陣所有者
潜龍酒造(株)代表取締役会長
山下庄左衛門さん（江迎町長）

- ① 長串山のツツジと北九十九島の美しい景観
- ② 鹿町地域で養殖されたトラフグ
- ③ トラフグの養殖場で餌やりする生産者
- ④ 鹿町温泉「やすらぎ館」の大浴場



鹿町

豊かな自然と
共存するまち

鹿町地域は、北松浦半島の中央部西海岸地帯に位置し、西海国立公園北九十九島やリアス式の美しい海岸線など豊かな自然環境に囲まれた地域です。

鹿町の歴史は石炭産業の興隆とともにあり、すでに天明年間（一七八一～一八八年）に石炭が採掘され、明治時代には多くの炭鉱が開坑しました。昭和初期の国の石炭政策でさらに炭坑は増強・拡大し人口も増え、昭和22年に町制を施行、25年には人口2万人を超えました。しかし、江迎地域同様、エネルギー革命により、48年にはすべての炭鉱が閉山し、急速に人口が減少しました。

現在は豊かな自然を生かした水産業が基幹産業となっており、中でも養殖トラフグは全国有数の生産地です。

また昭和44年からは恵まれた自然を生かした観光地づくりとして長串山の公園化が進められ、現在では10万本のツツジと北九十九島の美しい景観が一望できる県内屈指の展望公園となっております（平成20年に本市の「九十九島八景」に選定）、毎年ツツジの開花時期（4月中旬ごろ）には「長串山つつじまつり」でにぎわいます。

このほかパールマロン、自然体験館（カヌー体験等）、鹿町温泉「やすらぎ館」などもあり、県内外から多くの方が訪れる観光地となっております。